



ジェーン・マクブライド
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

テッサのためのいのり

「わたしにチームに入ってほしい人なんていないわ」とテッサは言いました。



校長先生は、テッサがほかの子たちとうまくいっていないと言いました。

テッサは、なぜ自分がそんな行動をとってしまうのかが分かりませんでした。テッサは問題を起こしたくなくなかったのです。ただ、時々とても頭にきたり、悲しくなったりして、それをおさえるのが大変なときがあるのです。

テッサはため息をつきました。「みんなとうまくやるなんてぜったいにできない」とテッサはひとりごとを言いました。

学校が終わると、テッサは急いで外に出ました。ママがむかえに来てくれています。ママは、テッサが今日あったことを話すのを聞いていました。

「だれもわたしをチームに選んでくれないんだ」とテッサは言いました。「わたしの味方は一人もないみたい。」

「かわいそうに、テッサ」とママが言いました。「人はやさしくないこともあるのよ。でも、天のお父様はいつでもあ

なたの味方よ。あなたの家族もね。」ママはテッサをギュッとだきしめました。「さあ、帰ろうか。びっくりさせることがあるの。」

家に着くと、おばあちゃんがいました！テッサはおばあちゃんが来てくれるのが大好きでした。

「毎日どんなことがあるの、全部聞かせてちょうだい」とおばあちゃんは言いました。「学校はどう？」

テッサはうつむきました。「あんまり楽しくない。」

「ママから、つらいことがあったって聞いたわよ」とおばあちゃんが言います。「ママとパパが、あなたのためにいのっているのは知っている？」

「うん。」

「おじいちゃんとおばあちゃんも、あなたのためにいのっているって知っているわね。」

テッサはうなずきます。

「実はね、もっとたくさんの人たちが、あなたのためにいのっているのよ！」

「どういうこと？」テッサは聞きました。



「あなたの名前を、神殿のいのりの名簿に入れておいたの」とおばあちゃんが言いました。「そうすれば、たくさんの人たちがあなたのためにいのってくれるのよ。あなたのことを知らない人たちもね。」

「それはつまり、その人たちは、わたしと同じチームにいるみたいなこと？」とテッサは言いました。

「たしかに、そういう見方もできるわね」とおばあちゃんと言います。「天のお父様は、いつもあなたをおうえんしておられるわ！そして今では、あなたのためにいのっている人たちもね。」

「ありがとう、おばあちゃん！」テッサはおばあちゃんをギュッとだきしめました。

次に学校で気持ちがざわついたとき、テッサは目をして、深く息をすいました。自分のためにいのってくれている人たちのことを思い出します。すると、少し気持ちが楽になりました。それからテッサは頭を下げて、自分もいのりました。

天のお父様、ありがとうございますと、テッサはいのりました。わたしのことをおうえんしてくださってありがとうございます。●

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国コロラド州に住んでいます。



いのりの名簿とは何でしょうか

イエス・キリストはほかの人のためにいのるよう教えられました。神殿のいのりの名簿とは、特別な助けを必要としている人たちの名前のリストです。病氣や、何かの問題で苦しんでいる人たちなどです。神殿へ行く教会員は、いのりの名簿に名前がある人たちのためにいのります。

●「わたしに従ってきなさい」の教義と聖約 121 - 123 章参照